

市民活躍・地域コミュニティ活性化特別委員会記録
【 速報版 】

令和7年9月26日開会

速報版

- この会議録は録音を文字起こした初稿のため、誤字脱字がある場合があります。
- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものため、今後修正されることがあります。
- 正式な会議録が掲載された時点で速報版は削除されます。

横浜市会

開会時刻 午前10時00分

◎ 開会宣言

- 麓理恵委員長 これより委員会を開会いたします。



◎ 委員席の指定

- 麓理恵委員長 議題に入ります前に、過日の運営委員会において会派順序の変更が確認されましたことに伴い、委員席につきましては、名立てのとおり指定いたします。

黒川	田野井	清水	青木	柏原	宇佐美	太田
副委員長	委員	委員	委員	委員	委員	委員
麓						
委員長						
鴨志田	斎藤（伸）	竹内	越久田	二井	関（嵩）	
副委員長	委員	委員	委員	委員	委員	

◎ 調査・研究テーマ「つながり再構築に向けた地域支援」について

- 麓理恵委員長 それでは、議題に入ります。

調査・研究テーマ、つながり再構築に向けた地域支援についてを議題に供します。

本日は、前回の委員会で決定いただいたテーマについて議論を深めるため、調査・研究テーマに関する本市施策について市民局より御説明いただいた後、質疑、意見交換を行いたいと考えております。

それでは、市民局より説明をお願いいたします。

なお、当局からの発言に際しては着座のままで結構です。

- 市川地域支援部長 ありがとうございます。それでは、つながり再構築に向けた地域支援について、市民局の取組を御説明いたします。

資料の2ページを御覧ください。

本資料の目次となります。この流れに沿って説明を進めてまいります。

続いて、3ページを御覧ください。

まず、1、地域支援の状況です。人口減少や少子高齢化の進行、世帯の小規模化、単身世帯の増加など社会情勢が大きく変化する中、地域の課題は多様化・複雑化しています。また、自治会町内会をはじめ地域で活動する様々な団体では、役員等の高齢化や担い手不足が深刻化しています。担い手を確保し、持続可能な地域コミュニティーを維持していくためには、自治会町内会など地域で活動する団体や人々、企業、学校、NPO法人等の様々な主体と区役所等が連携し、お互いの持てる力を出し合い、協働して取り組んでいくことが今後ますます重要になってきます。

本市では、平成23年に、横浜市地域の絆をはぐくみ、地域で支え合う社会の構築を促進する条例が、平成25年には、横浜市市民協働条例がそれぞれ施行され、地域のつながりづくりや協働を推進する環境がこれらの条例に掲げられています。生き生きと安心して暮らすことのできるまちを目指し、地域の皆様と共に課題

解決に取り組む協働による地域づくりをさらに進めていくため、市民局では、地域住民のつながりづくり、地域の担い手創出、地域の要である自治会町内会支援として、活動支援、運営の負担軽減等に取り組んでおります。

続いて、4ページを御覧ください。

（1）地域支援の目的です。目指す地域像として、地域の人と人、団体同士がつながり、地域が主体的・継続的に課題解決に取り組む市民主体の地域運営が行われ、より住みやすい、安全で安心な生き生きと暮らせる地域としています。

そして、地域支援の目的では、目指す地域像の実現に向け、全ての地域において、そこに住む人々が顔見知りになり、何かあったときには地域で助け合い、課題解決に向けて取り組めるような関係が築かれ、安心して暮らせる地域になるように地域を支援していくとしています。

続いて、5ページを御覧ください。

（2）協働による地域づくりのイメージです。資料の市民主体の地域運営と書かれた枠内を御覧ください。地域の皆様が主体的・継続的に地域課題の解決に取り組むために、地域では、灰色の線でお示ししてあるとおり、自治会町内会をはじめとして地区社会福祉協議会や民生委員などの委嘱委員、学校、NPOなど様々な団体や個人が協働して地域課題に取り組んでいます。このつながりを本市では地域のプラットフォームと呼んでいます。そして、地域のプラットフォームの周りには、高齢者の見守り、世代間交流など様々な地域課題があることを示しています。

続いて、地域のプラットフォームの右横を御覧ください。横浜市、とりわけ区役所は、地域協働の総合支援拠点として、局と連携して市民主体の地域運営が行われるよう、活動の支援や協働の取組を行っています。

図の下を御覧ください。中間支援組織として、横浜市市民協働推進センター、各区市民活動支援センター、市・区社会福祉協議会、地域ケアプラザ等があり、地域のつなぎ役としての役割を担っています。地域の一構成員として地域の団体と協働で取組を進めるとともに、区役所などと連携しながら地域の活動を支援しています。

続いて、6ページを御覧ください。

2、市民局の取組について御説明いたします。

まず最初に、地域住民のつながりづくり、地域の担い手創出に向けた取組の内容について紹介させていただきます。2点ございまして、1つ目に、活動者を広げ、活動を支援する取組を、その次に、活動を支援する拠点の順で御説明いたします。

7ページを御覧ください。

活動者を広げ、活動を支援する取組として、初めに、横浜地域活動・ボランティア情報サイトよこむすびを御説明いたします。

よこむすびは、4月17日にサイトをオープンし、青葉区、都筑区の2区で先行実施しているところでございます。今後、全区に順次拡大予定です。このサイトで発信している情報は、イベント情報、ボランティア募集情報と各団体の情報です。登録対象団体は、自治会町内会、公園愛護会、市民活動支援センター登録団体、地区社会福祉協議会、ハマロード・サポーター、水辺愛護会です。団体につきましても順次拡大する予定です。なお、現在の登録団体数は89団体です。今後も各区と協力しながら利用を広げてまいります。

続いて、8ページを御覧ください。

よこむすびの開設の狙いですが、コロナ禍を経てライフスタイルや人ととのつながりが変化する中、地域活動の担い手不足や新たな担い手の発掘が課題となっております。さらに、地域に対する興味関心を持つ方が活動に参加しようと情報を検索しても、地域活動情報の発信元が分散していることで欲しい情報にたどり着けない、入手しづらい状態になっていました。そこで、これらの課題を解決するために、地域活動の情報をオンラインサイトで一覧化して発信することで必要な情報を容易に取得していただき、地域活動への参加促進や新たな担い手の創出を目指し、オープンしたものでございます。

続いて、9ページを御覧ください。

よこむすびの狙いを図で御説明いたします。

左側のBeforeの枠内を御覧ください。これまで、様々な団体の情報がチラシやウェブ、SNSなどに散らばっていました。地域の活動に興味を持った市民の方がいらしても、おのののサイトで情報を探すしかありませんでした。また、情報を発信している団体にとっては、情報の受け手の反応が見えづらいという課題もございました。このように、ボランティアに来てほしい団体とボランティアに参加したい市民がいても、情報がマッチングしないという課題がございました。

次に、右側のAfterの枠内を御覧ください。この課題を解決するため、市民活動情報を一元化・一覧化できるサイトよこむすびを立ち上げました。団体の方は、簡単なフォームからサイトに投稿でき、情報を発信しやすくなりました。地域の市民の方は、情報がサイト上で一元化・一覧化され、検索しながら必要な情報をスマホ等から簡単に見られるようになりました。また、掲載情報にはいいねボタンを搭載し、情報を見た方がボタンを押すことで活動への応援の気持ちが反映され、反響が見えるようにしています。

続いて、10ページを御覧ください。

活動団体がよこむすびで情報発信することによる効果としまして、1つは、団体のイベントを広く知つてもらうことができること、2つ目は、イベントの開催可否をリアルタイムに発信でき、団体のホームページ代わりになること、3つ目は、イベント参加者が増えることで、新たな仲間を増やすきっかけになることが期待されます。これにより団体と市民の間で情報がマッチングしやすくなり、活動への参加、新たな担い手の創出につながることを目指しています。

続いて、11ページを御覧ください。

まず、自治会町内会の新しい運営スタイル推進事業ですが、自治会町内会による組織運営の在り方の見直しや、多様な活動団体との連携などを通じた新しい運営スタイルを創出するため、セミナーの開催やアドバイザー派遣、情報発信等を実施します。

次に、地域の担い手応援事業でございますが、自治会町内会をはじめとした様々な主体が連携・協働しながら課題解決に取り組み、魅力ある暮らしやすい地域づくりを進めるための支援を行います。

続いて、12ページを御覧ください。

ここから、地域住民のつながりづくり、地域の担い手創出に向けた取組の2つ目、活動を支援する拠点について御説明をさせていただきます。

横浜市には、市民活動、地域活動を支援する拠点としまして、市庁舎1階にございます市民協働推進センターと各区の市民活動支援センターがございます。両センターは、柔軟で多様な地域参加を促進させるほか、活動を活性化させる支援、様々な主体の連携・協働のコーディネートなど、地域課題の解決や魅力ある地域づくりを目指した取組を進めています。

平成12年に今の市民協働推進センターの前身となる横浜市市民活動支援センターが開設されてから、順次、各区の支援センターが設置され、現在の形になりました。

続いて、13ページを御覧ください。

各センターの主な役割ですが、まず、市民協働推進センターについて、表の左側を御覧ください。地域における課題の解決や新しい取組を創発するために、1つ目として、活動立ち上げ支援や連携支援などに関する総合相談対応、2つ目は、先進的事例の収集や扱い手育成に関する講座開催など、情報活用・事業手法の創出、3つ目は、施設や団体との交流、連携促進など、区域を超えて様々な主体との交流・連携が生まれる対話と創造の場として各事業を展開しまして、市内における協働の取組を推進しております。

これに対して、各区市民活動支援センターは、表の右側を御覧ください。主に、区域におきまして、1つ目ですが、活動に関心を持った方の活動参加の促進、2つ目が活動団体の活性化支援、3つ目として、連携・協働に向けたコーディネートなどに取り組んでいます。

なお、各センターの運営は、表下に掲載してあるとおりでございます。

続いて、14ページを御覧ください。

ここで、市民協働推進センターの取組事例を2つ御紹介させていただきます。

1つ目は、地域で多世代交流拠点を運営するNPO法人の運営課題解決を支援した事例でございます。

まず、運営支援では、地域で多世代交流拠点を運営するNPO法人から、主要メンバーの交代があり会計のことが分からず、そもそも非営利団体の運営で気をつけることは何かといった相談が寄せられました。市民協働推進センターでは、会計セミナーへ御案内したり実際の活動状況をヒアリングしながら、現状に合わせた事業整理について助言を行いました。

また、若手人材支援では、若手理事の悩みを聞きながら課題整理の手伝いや講座交流会で登壇いただくことで、同じような悩みを抱える他団体とのつながりをつくり、若手人材の孤立化を防ぐ取組を行いました。

さらに、活動拠点の課題解決支援として、契約満了により活動拠点の利用ができなくなるという事態が起きたため、空き家マッチング事業を活用し、移転に向けた支援を行いました。これらの支援により無事に近隣の空き家に移転ができ、現在も新規の利用者を増やしながら地域のために活動を継続しています。

続いて、15ページを御覧ください。

取組事例の2つ目になります。団体の課題解決や横のつながりづくりによる多主体連携の促進の取組を御紹介いたします。市民協働推進センターでは、活動団体の事例発表や参加者同士の交流を通して、活動に生かせる気づきやヒントが得られる市民協働相談会を開催しました。資料の事例は、昨年9月に開催された相談会です。港南区の認定こども園では、子供たちと住民との花壇の整備協力や、地域団体こども園の協力による地域の祭礼行事への参画、企業などとの夏休みの子供向けイベントの実施など、地域のつながりを生み出す様々な協働の取組を進めています。これらの地域連携事例から、地域内で協働を生み出すヒントやその効果などを学び合い、参加者からは、地域とのつながりの糸口やきっかけが身近にあることを知ることができたといった声が聞かれました。

続いて、16ページを御覧ください。

各区市民活動支援センターへの支援について御説明いたします。市民局では、各区市民活動支援センター職員や区役所の関係職員を対象としまして、協働の推進や相談対応力、コーディネート力の強化に向けた研修等の支援を実施しております。

まず、各区の機能強化の取組支援では、区域での中間支援組織等とのプラットフォーム形成、地域活動の担い手育成など、機能強化に資する各区からの事業提案について、区配により支援する事業を行っています。

また、関係職員の技能向上支援では、有識者を講師に招いた講座やワークショップ、相談対応のロールプレイなど、市民活動支援センター関係職員のスキル獲得につながる研修を市民局主催で開催しています。このように市民局は、各区の市民活動支援センターを支援し、各区市民活動支援センターでは、活動を支援する拠点としての様々な取組を行っています。

続いて、17ページを御覧ください。

各府市民活動支援センターの取組事例を2つ御紹介いたします。

1つ目は、自治会町内会イベント等へ若者世代のボランティアを派遣している磯子区の事例でございます。地域と若者世代のつながりが希薄になっているとの課題を踏まえ、磯子区の市民活動支援センターでは、若者世代のボランティア派遣をコーディネートしています。募集用ポスターを作成して学校と連携した校内での募集や、若者世代のボランティアと自治会町内会役員等が事前に顔合わせをし、イベント当日の仕事内容の確認などを行って、若者世代が自治会町内会などと一緒にイベントを盛り上げ、地域のつながりを創出する事例となってございます。

続いて、18ページを御覧ください。

取組事例の2つ目でございます。地域活動団体等の活躍や人と人がつながる機会を創出している戸塚区の事例でございます。市民活動の見える化、世代間・団体間の交流・連携の機会、地域活動を共有・解決する場、活動の担い手の不足といった課題がある中、地域活動と市民をつなぐ活動紹介展などを通じて交流と参加のきっかけを創出する、とつかお結びプロジェクトを主催しています。活動団体、学生ボランティアによる事前準備をはじめ、近隣企業・店舗には、パンフレット配架の協力をいただきました。

なお、昨年度の活動紹介展では、戸塚区総合庁舎、西武東戸塚ショッピングセンター、東急プラザ、戸塚図書館、戸塚スポーツセンターなど多くの会場で開催しまして、50の団体、個人の参加がございました。活動紹介展のほかにも、講演会、報告会、地域活動大交流会、活動の体験ができる、とつか地域活動ミニフェスタなどが行われました。これにより市民が地域活動を知り、地域活動に参加するきっかけづくり、学生、企業、地域施設とのつながりの創出、市民活動団体のネットワーク構築による地域の活性化が生まれています。

19ページを御覧ください。

(2) 自治会町内会支援について御説明いたします。

20ページを御覧ください。

地域活動推進事業について御説明いたします。まず、地域活動推進費でございますが、自治会町内会、地区連合町内会が実施する公益的活動の経費の一部等を補助しています。次に、自治会町内会加入・活性化促進事業では、各自治会町内会の工夫した取組や先進的な活動をまとめた動画作成や事例集を作成しまして、自治会町内会活動の活性化を図っています。

続いて、21ページを御覧ください。

自治会町内会DX応援事業について御説明いたします。まず、自治会町内会ポータルの構築ですが、自治会町内会からの補助金申請などを電子化するため、自治会町内会ポータルシステムを構築します。申請書類の作成や提出の手続をオンライン化することで、負担軽減を図っていきたいと考えております。次に、デジ

タルツール展示・相談会ですが、自治会町内会の皆様にとって最適なデジタル化を推進するため、デジタルツールの展示・相談会を行っています。

最後に、22ページを御覧ください。

自治会町内会等への補助事業について御説明いたします。地域住民の活動拠点及び共助による減災に向けた拠点となる自治会町内会館などの整備を促進するため、建設修繕費や耐震補強工事の補助を行っています。加えて、脱炭素化の推進のため、省エネ効果の高い設備の導入に対する補助も行っています。

資料についての説明は以上でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

○ **麓理恵委員長** ありがとうございました。では、説明が終わりましたので、各委員より御意見、御質問等がございましたらお願ひいたします。

○ **二井くみよ委員** 御説明ありがとうございました。私からよこむすびについてお伺いさせていただきたいと思います。私の地元では来年度以降ということになるかなと思うのですけれども、先行的に始めていらっしゃる青葉区と都筑区では、こうしたよこむすびを始めたことによって、まずどのような成果が出ているのか。私なんかは、ふだん地元でいろんな掲示板を見たりですとかSNSで情報を取っているので、こうしたサイトがあればありがたいなとは思っているのですけれども、どれぐらい区民の皆様が周知されていて、そうしたよこむすびがある前後でどれぐらいの成果の違いとか、参加率が向上したですか、そうした効果があったのか。もしできましたら、データはどのようなデータを取っていらっしゃるのかという点について、伺えたらと思います。

○ **宮島市民協働推進課長** 御質問ありがとうございました。よこむすびを始めての利用されている方の声なのですけれども、まず、情報を登録いただいている団体様からは、非常に簡便に情報をアップロードできるので使いやすいということで御評価はいただいているところです。

ただ、一方で、利用者、閲覧される方々への告知が主としてまだ足りていない部分があって、サイトの認知度が上がっていないという課題がございます。ですので、利用されている団体の方々も、もうちょっと知ってくれる人が増えるといいなというようなことは、課題認識としておっしゃっていただいております。

現在、よこむすびの指標として見ているのが、まずサイトに訪問されるユーザー数なのですけれども、4月から8月末まででサイトに訪問された方がおよそ1万人ぐらいで、ちょうど5か月ぐらいですので、毎月新たに2000人ぐらいずつの方がサイトを訪問していただいているというような状況でございます。

ただ、サイトを始めたときは、記者発表もいたしましたし、ローカル誌などで取り上げていただきたり報道もされましたので、そういったところで、最初、利用者数は跳ね上がったところからスタートしているのですが、その後、伸び悩んでいるところはございますので、広報を継続的にやっていくことが必要かなと今捉えているところでございます。

○ **二井くみよ委員** ありがとうございます。始まったばかりでもあるので、年数を重ねていけば、それが区民の方に認知されて、その区の中の情報を見ようと思ったら、このよこむすびを見るというふうな定着があれば、すごく活用が今後もなされるのではないかなと思って注目はさせていただいているのですけれども、これは、いろんな各団体で情報発信をされていらっしゃいますけれども、既存のものと並行しながらよこむすびも活用していくというようなイメージなのかということと、あと、例えば夏祭りみたいな、最近は多かったですけれども、こうしたイベント情報は、区役所とかでもまとめていらっしゃると思うのですけれども、この対象団体は、ここの中に区役所は入っていないかなと思ったのですけれども、例えば区役所だと防

災訓練とかもまとめていらっしゃると思うのですけれども、そうした区役所とよこむすびのつながりというのはどうになっているのか、伺えたらと思います。

- **宮島市民協働推進課長** こちらの情報は、基本的には、地域の活動情報を載せていくサイトになりますので、公的なセクターがやっているイベント情報とか活動情報は、ここには掲載はしておりません。この情報の掲載に当たりましては、まず、団体様が登録作業をするのですけれども、その登録作業は区役所のほうで登録をさせていただいて、載っている情報については、市役所、市民局側も区役所のほうも常に閲覧をさせていただいて、どういった活動が、動きがあるのかなというのは、毎日ウォッチさせていただいているところでございます。

情報の掲載については、既存の団体様が今までやっていらした紙の媒体であるとかポスター、チラシ、回覧板、そういうものはやりつつ、また新しい告知媒体として、今、併用してこちらを使っていただいているというところです。確かに夏祭りとかそういうものも今回載せていただいたので、一定程度、結果というか評価、集客にも多少はあったのかなと思いますが、これから利用者の方のアンケートなど取ってお声を集めていきたいと思いますが、私どもが聞いている中でも、この掲載情報を見て活動に参加する方、会員が増えたとか、そういうことは、あったという声は一部聞いております。

正確なフィードバックは、これから調査していきたいと思っております。

- **二井くみよ委員** ありがとうございます。このよこむすびが活用され続ければ、すごく浸透するのではないかなどと思うので、引き続き調査を取っていただいて、できればそのデータ、アウトカムとかも大切だと思うので、そうした点に留意していただきながらやっていただけたら、私も注目させていただきたいと思います。ありがとうございます。
- **越久田記子委員** 御説明ありがとうございます。今、二井委員からお話があったよこむすびに関しては、私も地域でいろいろお話を聞く中で、どこで何をしているのか分からぬとか、どのように参加していいのか分からぬとかという声はよく聞くので、ぜひこれは本当に、今、二井委員からお話もありましたけれども、しっかりと活用していけるような形にしていただければなと思います。

というのと、あと、私からお聞きしたいのが、17ページの磯子区の事例についてなのですけれども、要は、中学生の皆さんのが地域のお祭りとかに参加するというのをつなげていくという取組、これはすごくいいなと思ったのです。前回の委員会のときでも、区ごとにいろいろ特色がありますよねという意見が各委員から出たと思うのですけれども、これは磯子区の事例ということで、まず1つは、こういうことをやりましたよ、こういう効果がありましたよとかいうことを、各区ごとに横展開ができるのかどうかということをお聞きしたいのが1点と、例えばこうやって若い方、中学生とか、あるいはもしかすると高校生とかもあるかもしれないのですけれども、子供だったり生徒だったりというような若い方たちの意見を、今の若い子とかいう言葉を使うとちょっと違うかもしれないのですけれども、やはりメリット、デメリットで動いちゃうというところもある中で、こういうのに参加してこういうところがいいと思ったみたいな意見を、ぜひ今後の活動に生かしていっていただきたいと思う。そういう子供たち、生徒たちの意見を酌み取るような、そういうような取組をしているのかみたいなところを教えていただければと思います。

- **宮島市民協働推進課長** 御質問ありがとうございます。まず、各区の市民活動支援センターの取組で磯子の例というのを1つ挙げていただきましたけれども、各区のセンターでは、区域の中間支援組織として地域活動に入る関心を持った方の入り口から活動団体の掘り起こし、それから各活動のつなぎ、コーディネート、

ネットワーク化みたいな様々な活動をしている中で、今回は、この若い世代を地域につなぐというようなことを実施したというところでございます。

若い方の意見を本当に酌み取っていかないと、一番最初にもおっしゃっていましたが、どのように参加していいか分からぬというところは、現役世代とかそういう方々もそうなのですけれども、学生さんとかも、地域には関心があるんだけれどもという方もなかなか入りにくい部分があつたり、受け入れる地域の方々も、若い方々がどういう気持ちで地域に目を向けてくださっているかとかという、お互いの理解が進んでいない部分もありますので、今、よこむすびというサイトをちょうど立ち上げたところでもありますので、サイトでただ情報発信するだけでは、お互いのマッチングが進まないものと我々も認識していますので、例えばですけれども、学生の皆さんからボランティアに向けてどういう心配事を持っていらっしゃるかとか、何か体験された方には、どういうことが体験してよかつたかとか、そういう体験記だったりとかヒアリングした内容みたいなものを、よこむすびのサイト上を通じて皆さんに発信して、受け入れる側も参加する側も障壁を低くしていただけるような、そんな取組はしていきたいなと思っております。

あと、各区のセンターの取組の共有ですけれども、各区のセンターでは、毎月、定期的に情報誌みたいなものをつくり出していくらっしゃったりします。それは私ども市民局のほうにも共有いただきいていたり、センター同士での横の共有などもされていますので、そういう情報誌を見ながら、隣の区でこんな活動をやっているんだとか、こんなイベントがあったんだということは、我々も認知しながら日々連携して業務を進めているというところでございます。

- **越久田記子委員** ありがとうございます。ぜひいい事例というのは、しっかりと18区の中で共有していただきたいって思うことが1つと、例えば小学校のときに小学校でやった夏祭りに参加して楽しかったというところから、次は、じゃあ自分が中学生、高校生になったら、そこで例えばの地域の皆様と一緒にかき氷を作ったりそこに携わるということで、地域に対する愛着であるとか、ひいては横浜市に住み続けたいと思えるような気持ちみたいなものが醸成されるといいなと思いますので、引き続き取組をよろしくお願ひいたします。
- **太田正孝委員** 御苦労様です。活動推進の費用のこととかがあるんだけれども、今、町会の加入率はどのくらいになったんでしたっけ。全住民の町会の加入率、平均でいいですよ。6割とか何割ですか。
- **岩井地域活動推進課長** 平成6年4月1日現在で66.7%となっております。
- **太田正孝委員** 66%しか加入していないということになると、皆さんの活動が、どちらかというとその66%の加入率のところに集中して行われているわけだよね。加入していない人たちのところには、これは聞くところだけれども、例えば横浜市の広報誌が届かないとか、町会に入っていないから届けないんだということを言う人もいるし、そうすると、4割余の人が広報誌も見ていないのではないかとか、そういうことがあるじゃない。それをどうするかという問題が一番重要な問題だと思うんだよな。このよこむすびの意味は、町会に入っている人たちの横を結ぶというだけじゃなくて、町会に入っていない人も含めてよこむすびじゃないと意味はないと思うよ。その点についてちょっと手が入っていないんだよね。何で加入しないのかというところには、いろんな理由があるのかもしれないんだけれども、その一つには、例えば町会費が高くて払えないという人もいます。50円とか1000円とか2000円とかというのは、今、平均的に幾らになっている。高いところは、町会費は1月どのくらい。
- **岩井地域活動推進課長** 大変申し訳ありません。町会費までは、各自治会町内会で定められておりますの

で、こちらのほうでは把握しておりません。

- **太田正孝委員** いや、だから、把握していないのが大体駄目じやん。そうでしょう。今申し上げたように、町会費が払えないから、生活もいっぱいだし、町会には入らないんだという人もたくさんいるよ。じゃあ入れないという町会費というのは幾らなんだって、俺は知りませんよって、それじゃあよこむすびだろうが縦結びだろうが全然駄目ってことになるじやん。俺は前から言っているよ。町会費って幾らなのですかということを何回も聞いてると思うんだけども、3回ぐらい聞いてるのではないか。だから担当の部署としては、当然知らなきや駄目じやん。だってそうでしょう。じゃあ加入しない理由は、今、私が、町会費が高いとかなんとかということを一言言つたけれども、ほかに何があるんだろうって。
- **岩井地域活動推進課長** 令和2年に、自治会町内会向けにアンケートをさせていただきまして、それによると、加入をしない理由といったしまして、主な理由としては、班長や役員をやりたくない、ほとんど家にいない、活動に参加できないからですとか、あと人付き合いが面倒、億劫だからというような回答が主だった意見、理由となっております。
- **太田正孝委員** だからそれは多分表向きのことだと思うんだよ。裏と表があるからさ。貧乏で金が払えないから入らないんだよとは、なかなか言いづらいよな。でも、僕の仄聞しているところによれば、お金が高いので生活もいっぱいだから払えないんだと、そもそも言えないから、面倒くさいからだとか町会の役員をやりたくないからと言っているだけに過ぎないのかもしれないじゃない。だから6割しか入っていないんだよってことになるわけじやんか。

それじゃあうちとしてみれば、ここに書いてある町内会の支援だとかなんとかということを言っているけれども、市民全体に対する支援でなきやいけないわけだから、ちょっと考えたほうがいいのではない。

その点でどうかな。その点のところを解決しないと駄目なのではないかと思うのと、それから、補助金を出したりなんかしているじゃない。これは、広報誌を配つもらったりとかいろんなお仕事をしてもらっているから幾らかは払わなきやいけないのではないかとか、そういう気持ちもあるでしょう。町会に入っていない人が40%もいて、その人たちは入っていないだから、今の話じゃないけれども、広報誌もろくろく配つていないんだろうから、だから補助金も出さないよって、それじゃあ駄目じやん。

横浜市として、町会に入っていない人にも広報誌とかいろんなものを配つてもらわなきやいけないし、できればいろんな行事にも参加してもらうように働きかけなきやいけないんだから、そのためには、全所帯に対して700円なら700円払いましょうってことじゃなかつたら駄目じやん。今度は900円か。全所帯に対して払う代わりに、町会に加入していない人にも入つてもらうようにしてもらって、あるいは、入っていない人に配つていない横浜市の広報誌なんかも配つてくださいよというところに行かないと駄目じやん。だってそうでしょう。町会に入っている人に金をあげて、定期的に広報誌を配つてくれって、簡単な話だよな。それじゃあ、横浜市の職員もこんなたくさんいてだよ、努力が足らないということになっちゃうじやん。そうでしょう。それじゃあよくないのではない。今の話はどう思う。900円払う、分かりました、全所帯に配りましょうよと。その代わり町会に未加入の人たちにはこうしてくれませんかとか、ああしてくれませんかとか、そういう横に結んでいくという意味においてやんなきや具合が悪いのではないかと思うけれども、どう思う。

- **岩井地域活動推進課長** 御意見ありがとうございます。まず、先ほどおっしゃっていた補助金につきましては、自治会町内会の皆さんのが公益的な活動をしていただいている、それに対する補助ということ出させ

ていただきいていまして、それが結果的に、その地域に住む住民の皆さんにも還元されるのではないかということで、まずは、自治会町内会の皆さんのがんばりに対する補助ということで、この制度を運用させていただいております。

- **太田正孝委員** いや、だからその先の話だよ。福祉の増進のために町会の皆さんのがんばりをやつてくれているわけだよな。だからありがたいと、その活動を支援しようじゃないかというんだけれども、加入率が6割だとか、ああでもないこうでもないという中で、しようがねえじゃねえかと、あとは、金も払わないやつは置いてけぼりなんだよってこういうこと。これは、日の当たらないところに日を当てなきやしようがない。そのために横浜市の職員がいるわけじゃん。

町会の人たちというのは自分たちのことだから、もちろん自治だから、町会をつくろうがつくるまいがそれは自分の自由なんだよってことになっているんだけれども、ここまで補助金を出したりとかということの中で横浜市が取り組むに当たっては、今言ったみたいに、加入していないやつは関係ねえよというわけにはいかないよって言っているわけ。あくまでも町会の自主事業だから、横浜市はお金も出さなきゃ勝手にやってんだから、お任せしますよって言って笑って見ていますよというんだったらそれでいいよ。ここまで金も出して、ああでもないこうでもない、横に結びましょうとかってやっているんだとすれば、しかも、横浜市の市民の福祉の増進にかけがえのない町会なんだから、じゃあ町会に加入するようにひとつ働きかけてみましょうよとか、それには、何度も言うように、町会に加入していない人たちもいるんだから、住民が、だから補助金もその住民の数だけカウントしてあげましょうよとか、そういうふうにしていかなかつたら、だつて、だんだんしほんでいらっしゃうよ。どう思う。そう思わない。

- **岩井地域活動推進課長** 自治会町内会の本市の捉え方なのですけれども、地域社会の連帯感ですとか、助け合い、支え合って地域社会をつくっていただく基盤だと考えておりまして、例えば環境整備だったり防犯活動、防災活動、こういった様々な分野で多大な活動をしていただいていまして、今後も横浜市が協働を進める上での重要なパートナーだと認識しておりますので、そういった自治会町内会の皆さんを支援することで地域にそういった還元を図っていきたいということと、あわせて、先ほど委員がおっしゃったとおり加入促進ですか、あとは、自治会町内会だけでは地域を活性化だったり、いけなくなっているところもござりますので、そこは、地域を見ると様々な活動をされている団体の皆さんのがいらっしゃいますので、そういう方々と連携しながら、より皆さんの地域を運営できるような働きかけを、市民局のほう、区役所を通して連携してやっていきたいと思っております。

- **太田正孝委員** 課長、よろしくお願いします。というのは、災害が発生したときに、何かのときに町内会館に避難するという場合があったとして、何だよ、町会にあの人たちは入っていないんだよとかって始まっちゃうよ。そういう差別というのではないけれども、そうでしょう。町会にも入っていないのにそういうときだけ来るのねって、こういうことになってくるわけよ。そういうことは実際に起こるよ。だから、いろんな意味から言って、町会に加入していない人は、加入できない理由として、今言ったみたいな経済的な理由があれば、何か考えなきゃしようがないなと。町会費を少し下げるようになってくれとか、いろんなことについて神経を使ってあげないとうまくいかないと思います。いいです。

- **竹内康洋委員** 改めて御説明ありがとうございます。この特別委員会というのは、今年度立ち上げをされて、まさに市民活躍、地域コミュニティ活性化ということで、これが満たされると、恐らくこの特別委員会のテーマにはならなかつたと。非常にこういうことが活性の、昭和の時代性だけで論ずるものじゃ

ないかもしれませんけれども、その時代にはもしかしたら違うテーマだったかもしれないという、こういうことがあって、今、御説明の資料の中で、5ページで、協働による地域づくりのイメージという、その地域のプラットフォームってありますよね。確かに今でも自治会町内会がてっ�んにあり、両サイドに地区社会福祉協議会とか青年指導員とかスポーツ推進委員、民生委員、消防団とか保健活動推進員、様々な方が活躍もしていただいている。

しかし、例えば先ほど来ある自治会町内会の加入もそうだし、今では学校のPTAについても様々な議論がされて、また様々な声も上がっているという、こういう状況があると。だからこの市民主体の地域は、実は大切なだけれども、そこで活躍する担い手がいないからどうしようかという課題が、職員の皆様も、我々としても地域の代表としてどうしたらいいかという、こういう研究会であると思うのです。

4ページにあるように、そういうことがあるから目指す地域のイメージとして市民主体の地域運営という、これが全てかどうかは分からぬけれども、非常に大きな割合で大切だと。より住みやすい、安全で安心な生き生きと暮らせる。例えば、朝、今日もそうですけれども、通学をする、見守りをしていただいている。いつも元気に、本当に単なる見守っているだけじゃなくて、信頼をされて児童が慕っているおじさんというのはいるのです。

または環境で一掃デーとかって、参加できないのですけれども、昨日か、やっているんだと思うのですけれども、清掃していただいて駅に立っていると、皆さんのが忙しそうに出かけるときに、そういう人に声をかけてありがとうございますという方はいるだけれども、自分ではなかなかできないって考えると、極端な言い方をして、適切な言葉が分かんないけれども、その安心・安全などころに乗つかっている、よく福祉の理論で言われるフリーライダーがあるじゃないですか。

ただ乗りという、言葉は適切か分かんないけれども、福祉でよく言われるだけれども、そこがもう形になってこなくなっちゃうと、地域が住みやすくて安全じゃなくなっちゃうから、どうみんなで気持ちよくこのまちに参加をして担い手をつくるという、こういうことだと思うのです。

そこでお聞きしたかったのが、先ほどの新たなつながり、よこむすび、このサイトも、申し訳ないですけれども、先ほど初めて見ましたけれども、どちらかというと、このよこむすびというのを拝見すると、活動団体が登録されているけれども、これは駄目だということじゃないんだけれども、囲碁をする方とか、詩吟をしていますとか、リズム体操、脳トレをしていますとか、自治会とかそういうのもあるんだけれども、まずここは、そういう方が自治会になかなか入らない。いろんなお考えが、先ほどもあったけれども、あるんだけれども、地域にまず出てきていないというか、もっと言うと、人のつながりというか顔も合わせることがないから、まず、ここのよこむすびの言葉に象徴されるように、地域で人とつながってほしいところから始まるというところが大きいような感じがするだけれども、狙いとしては、まずはどうですか。もうちょっとその辺、もしあったら、御説明いただいたらいいと思うのですけれども。

- 宮島市民協働推進課長 御質問ありがとうございます。まさにおっしゃっていただいているように、趣味の会であるとかそれぞれが集まりを持って、その活動も今回よこむすびの中では紹介しているのですが、ここに今紹介されている団体の多くが、各区の市民活動支援センターのほうで登録いただいている団体様でありまして、もともと市民活動支援センターというのは、生涯学習支援センターから始まっているところなのですけれども、生涯学習も市民活動も、実は、学びを得たものを社会で実現するというところが大きな目的でございまして、まずは、コミュニティが希薄化している中でも何らかの意図を持って皆さんのが集まられ

て、その集まりは大事にしながらも、そういった方々にぜひ地域に出ていってもらう、つながってもらうというところを支援するのが各区の市民活動支援センターの役割であります。

ここに出ている団体様のそれぞれの今の活動状況は、お仲間の取組プラスアルファみたいな形のものが多いですが、でも、どの活動団体も新しい仲間は大歓迎してくださいますし、また、その活動をもって地域で何か自分たちの力が役に立つのであればという思いは、常に持てて活動していただいている団体様でありますので、機会を捉えてそういう方々が地域とうまくつながるように、まさに区役所や各センターのコーディネート機能でそこをつなげていくというのが狙いでありますので、表面的には、このサイトでは、そういう活動の情報しか見えていない部分もありますが、そこはしっかりとつなげていくということを我々もやつていきたいというふうに思っているところでございます。

- **竹内康洋委員** 最後の今おっしゃっていただいたコーディネートをするというところが大切だと私も思います。デビューして、要は、今言った地域の担い手ってなると、この地域の担い手になっていただくことが気持ちよく広がっていくことをある意味では目指していくということですよね。

今、私は常委員会が、市民局が所管する委員会でございますので、改めて、以前も行ったんだけれども、担っている事業者が変わっていることもあって、先日も市民協働センターにお伺いをしました。それで、様々なことをやっていることも認識はするんだけれども、区の活動支援センターもそうだけれども、担い手をするコーディネーターという機能というのはなかなか大変で、パワーも要るのではないかと思うのですけれども、その辺がうまく回っているかどうかというか、その辺の課題があるのか。また、そういうことをまさに今進めている肝であるとか、ちょっと感覚は違うかもしれないんだけれども、その辺、何かあれば教えていただけますか。

- **宮島市民協働推進課長** おっしゃっていただいたように、コーディネートは技術もマンパワーも必要とするものでございますので、センターの運営というのは、非常にかじ取りが今難しいところにはあると思っております。ただ、市のセンターも各区のセンターも、そこは、各スタッフが活動している団体様とか相談に来られている方々の声をよく聞きながら、持ち得る情報を精いっぱい提供して次の活動につながるように、また、どこかと結びつけることで発展するようにということでコーディネートをやっているところでございます。

- **竹内康洋委員** 先ほど中学校の生徒さんが派遣している事例なんかもあったけれども、その辺をコーディネートする機能を、もう一つ、逆にいうと大変なのではないかなって。市民協働センターにお伺いしても、これは、人數的な話かどうかは分かりませんが、それも改めて、これは御意見申し上げますけれども、注力していただくといいのかなというふうに思います。

あと、中学生の派遣もあったけれども、身近な事例で商店街の活性化を、地元の高校生が商店街の役員に提案をしてくださったのです。地元のコミュニティー誌にも紹介をされたんだけれども、しかし、役員の皆さんとかは、今までそういうこともやったんだよで終わっちゃったから、それは本当にかわいそうだなと思ったんだけれども、高校生はすばらしくて、悔しい思いをしたから、おおぐち商店街なのですけれども、昭和の復興の象徴として天皇陛下が初めて巡行された一つの商店街、あの当時のイメージを、今、高校生がもう一度ああいうのを目指したいって感動する話をするわけです。でも、役員の人は、いろんなことをやったんだけれども、君たちが言うのはって言ったんだけれども、それでも諦めない高校生がいるということですね。

そういうことは大切だと思って、大学もそうですけれども、高校生は、今、文部科学省でそういう地域に様々出ていってという、いわゆる何と言うんだ、通知じゃなくてプログラムじゃなくて、そういうことが多く出ているということが、私も初めて知りましたけれども、そう考えると、もう一つここの中に、高校生だけは言わず、例えばコミュニティーからすると、防災も、地域の防災拠点で訓練しても、正直なかなか集まらない。でも、この間も市民防災センターで防災縁日といって、子供のためにヨーヨーをやったりいろんなことをやりながら防災を学ぶとなると、5000人以上来るのです。何でここにこんな人が来るんだって、言い方は悪いけれども、物すごいのです。

休みたかったたまの休日のお父さんも、子供が行くから来てくれたと。来ると学びになるし、子供は遊ぶだけじゃなくて学びになって、命を大切に子供は命を大切にする親になる、大人になると。こういうことがつながっていくと、地域を大切にする高校生は、地域をそのまま離れずにいてくれる可能性もあるということで、この辺の視点って改めて大切だと思うのですけれども、これは全て局だけの話じゃなくて、我々が様々な今回研究していくのですけれども、御意見がありましたら教えていただきたいと思います。

- **宮島市民協働推進課長** 若い世代の活動への参加というのは、私どもも実感しているところがありまして、すごく、今、高校生、中学生、大学生、様々な活動に意識を向けていただいているという感触は得ております。むしろ受け入れる活動を今されている大人たちのほうが、そこに対してのまだ成功体験を持っていないというような印象を受けておりますので、先ほどのよこむすびなどのサイトも、ただ情報を出し合っているだけではなかなかマッチングしないという話も、先ほどもさせていただきましたが、成功しているというか、若い世代の方も喜んでいらっしゃっていたり、地域の方々も喜んでいらっしゃっていたりという成功体験の事例を少しでも多く生み出しつつ、それを発信していくということをやって、よい循環が続いていくようにはしていきたいと思っております。これは、商店街であっても防災であってもいろんな側面の活動があると思いますので、様々な場面でそういった活動が広がるように、うまくツールとして生かしていきたいというふうに思っております。

- **竹内康洋委員** 最後ですけれども、様々、横浜市って、横浜市市民協働条例もうちの先輩がまだいらっしゃるときに非常に注力されて=全部=改正をしましたと。そのときの議論でもあったのですけれども、共創という部分も非常に多くなってきたのでということで、考え方としては、単なる市民との契約だけじゃなくて企業という部分も入っているという、こういうニュアンスで解釈をしていますと。そうすると、共創フロントであるとか、例えば横浜市でYOZO BOXのスタートアップとか、これも政策経営局、経済局とか、または、ランドマークにはNANA Lv. なんてあるじゃないですか。それで、技術的なものであれもすばらしいと思うけれども、経済局か、=テックラボ=なんてあるじゃないですか。

非常にそういうことが多く、地域でも様々なことをやっていく。そこには、イベントなんかは、大学生なんかも地元の神奈川大学さんとかが出てきたりするから、そうなってくると区レベルでそういうことを、これは政策経営局です、経済局です云々じゃなくて、今後の区ということは、そういうことの各区というか、よこむすびという言葉を使えば、横浜市もよこむすびして、政策経営局、経済局、市民局も、そういうことも全部そういう連携があるようなコーディネーター機能があればいいのかなと思うし、あるべきだと思うのですけれども、その点はいかがでしょうか。

- **宮島市民協働推進課長** 今おっしゃっていただいたように、様々な本当に主体が連携して課題解決に向き合うということが必要な時代だというふうに思っております。各区、また各センターのほうでも相談とか課

題に向き合うときには、どういった方が手を結ぶのが一番いいのかというのを、公益団体に限らず企業さんも含めて、また地域の方も含めてということで、そこは垣根なく御相談、またそのコーディネート先というのを模索して対応しておりますので、引き続きそのような取組を進めていきたいというふうに思っております。

- **竹内康洋委員** 各企業さんとか大学も結構、地域課題解決ということをタイトルに掲げていらっしゃるところを多く見受けたりしますし、そういう接触をした中でもお話を聞くので、再度、再三で恐縮ですけれども、その視点も含めて、若者であるとかそういうことも含めて、ぜひ市民局さんとしても推進をしていただきたいと思いますので、よろしく。
- **柏原すぐる委員** 御説明ありがとうございます。私のほうから幾つか質問しますが、中期計画の方向性が、先般、示される中で、もともとの現行の中期計画でも、どういうふうにこのつながりとか自治会について触れられていたかなというところだと、1つ自治会加入率でいうと、なかなか目標達成が厳しいというか減少トレンドやむなしかなというところで、この辺をどういうふうに増やしていくというか、そもそも増やそうとすることがもう時代に合わないのか。だから、ここはもう加入率が増えない、ある意味、前提に立って考える必要があるのかなって少し考えざるを得ないように思っているのですが、その辺り少し、今の段階でお話しできる範囲で構いません、教えてもらえますか。
- **岩井地域活動推進課長** 御質問ありがとうございます。委員がおっしゃるとおり加入率は、なかなかここ近年上がっておらず低下している傾向が見て取れます、先ほども申しましたとおり、本市といたしましては、自治会町内会の皆さんか、本市が協働を進める上で重要なパートナーという位置づけは変わりませんので、引き続きその加入促進については区と連携しながら取り組んでいくとともに、一方で、加入率が減ってきてているという現実も受け止めながら、先ほどからお話しさせていただいているとおり、つながりづくりというところの視点で、自治会町内会だけじゃなくて、ほかの様々な活動をされている多くの主体の皆さんと連携しながら、その地域の課題を皆さんで解決できるような促しというのですか、支援をしていけたらなということで今考えているところでございます。
- **柏原すぐる委員** ありがとうございます。変わらないものもあるのかなというふうには思います。これは確認なのですが、中期計画でも市民局が担う部分と、あとは、地域の支え合いの推進という文脈では、健康福祉局の＝マチフク＝計画だと、そちらが担う部分もあるということで、指標とかを見ていると、多分相談件数というのが大体施策指標になっていまして、福祉のところは、ある種、まちというか地域ケアプラザなんかがいつでも迎えられる状態での相談というのはあると思うのですが、今、市民活動支援センターもまだ相談件数ということになっていて、今後はより積極的に出ていくとか、待っていて来た相談件数というよりは、コーディネート数なのかマッチング数なのか、何かを創出したというような指標等で、少しこういうつながりづくりとか地域の活動支援というものを考えていくことも大事なのかなと思うのですが、以前、局別の審査でもこの辺りは、質問したところはあったのですが、こういった考え方というのはどういうふうに捉えられますか。なかなか指標化しづらいところはあると思うのですが。
- **宮島市民協働推進課長** 御質問ありがとうございます。現時点で相談対応件数というのを指標にしておりますのは、本当に相談というのが御支援の入り口でございまして、コーディネートであれ団体の育成であれ、活動にこれから入ろうかなと思っている方であれ、相談というところでまずは丁寧に御対応させていただいて、お互い信頼関係を築くところからが大事だというふうに捉えておりますので、各センターの指標として、

まずはそれを、今、挙げているところでございます。ただ、今、柏原委員のほうからもおっしゃっていただいたように、もう一步進んだアウトカムに近い指標みたいなものも、今後、検討していく必要はあろうかと思っていますので、御支援した件数のようなものを指標になるように、今後、設定を検討していきたいと思っております。

- **柏原すぐる委員** さっきのよこむすびの話で、市民活動支援センターの登録団体のみということだったのですが、登録団体の皆さんって、大体年代とかってどんなボリュームゾーンというか、あるのですか。例えば50代から70代の方が多いとか、30代の方、40代の方が多い、そういうのってあるのですか。すみません。傾向を知りたいという趣旨で聞くのですが。
- **宮島市民協働推進課長** 一口に申し上げられるものではないですが、若い方よりかは、割と高齢の方のほうが多いかというふうには思いますけれども、ただ、現役世代の方々で構成しているような団体の皆様もいらっしゃいますし、様々でございます。
- **柏原すぐる委員** ありがとうございます。このよこむすびは全国展開をしていくというところなのですが、私は地元が鶴見区で、例として申し上げますと、これつるというサイトがありまして、日日是つるみのこれつるなのですけれども、これは、一応、民間事業者さんが鶴見に特化したイベント情報とかいろんな情報を発信していく、ネット空間での情報発信もそうだし、あと、リアルでイベント開催を主にやってたりとかするのですけれども、例えばそういうところと、分かんないのですけれども、簡単に言えば相互リンクかもしれないのですけれども、こういう既存の民間、市でやっているものとの連携とか、地域によって少しあるもののが違うのかなと思うのですが、こうした考え方っていかがかというのを教えてください。
- **宮島市民協働推進課長** 御質問ありがとうございます。オンライン環境でございますので、ネットワークが広がる、そして、その目的が果たされるというところの範囲で有効な手段は広く検討していきたいと思っております。
- **柏原すぐる委員** 予算規模を見ると、構築に600万ぐらいで維持に300万ぐらいって、多分そんなに高コストをかけられないとは思うのですが、一律にやる部分は一律にやって、各区で連携できる部分は進めていただくのがいいのかなと思いました。

最後に、18ページにもありました戸塚区の事例について、昨年たまたま視察をこちらさせていただきまして、13ページの下にあるように、運営形態が18区で、活動支援センターが違うということで、直営が12区、民間委託が6区ということで、戸塚は民間委託だったということなのですが、この辺りもいい取組が他の区に広がったならというところもありますし。

地元鶴見区でいえば、複合施設の中に入るというところもありますので、こうしたところを契機に、特に、コーディネートする人の顔が見えると一番いいかなというのは、個人的には思っております。ただ、登録団体の方が年配の方とは今聞いたのですが、御年配の方でもインスタを見る女性の方がいたり、フェイスブックをやっている方もいるので、コーディネートする側も少し見えるほうがつながりやすさはあるのかなというふうには、個人的には思いました。これは感想としてお伝えして、以上といたします。

- **宇佐美さやか委員** 生き生きと安心して暮らすことのできるまちを目指し、地域の皆様とという中で、横浜に住んでいらっしゃる外国人の方も対象になっているのかなということを聞きたいのですけれども、このよこむすびは多言語化になっているのでしょうか。
- **宮島市民協働推進課長** 現時点では日本語のみでございますので、翻訳ツールとかを使ってテキストを読

んでいただくような形は可能かと思います。

- **宇佐美さやか委員** 外国にルーツのある方ですとかも、横浜に住んで地域の皆様の中に入ると思うのです。ボランティアしたいって方もいらっしゃるでしょうし、地域の活動に参加したいという外国人の方がおられると思うのです。そういう方々にも参加を呼びかけていくということでは、広く多言語化をしていただいて、いろんな方が参加して、本当に地域がつながるものになってもらえばなというふうに思うのです。多文化共生ラウンジがあるからいいんだよというふうに思われてしまうかもしれないけれども、そこにつながる前に、このサイトをつながれるということもあると思うのです。多文化共生ラウンジとも連携しながらいろんなツールを、ボランティアされたい方もおられるでしょうし、こういう方にもお知らせをしていくということをしていただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。
- **宮島市民協働推進課長** 私、先ほど日本語のみと言いましたが、7か国語、失礼いたしました、変換の機能がついておりました。外国にルーツを持つ方々も活動されるというのは、当然に多くいらっしゃいますので、そういった方々もしっかりとお支えしていきたいと思いますし、また、地域で活動されている方におかれましても、日本語の教室をやっていらっしゃったりとか様々な活動がありますので、本当に国際壁を越えて、横浜で、地域でつながるというところをしっかりと達成できるように、これからも御支援していきたいと思います。
- **宇佐美さやか委員** ありがとうございます。11ページにも、学び合い交流セミナーとかビラを貼ってくださっているのですけれども、こういうものとかも多言語化になっていたらいいなと思うのですが、この点はいかがでしょうか。
- **岩井地域活動推進課長** 今おっしゃるとおり、確かに参加される方に外国の方がいらっしゃるかもしれませんので、そういう視点も踏まえながら今後検討させていただければと思います。
- **宇佐美さやか委員** せっかくつくったもので、日本人だけが知ればいいよというのではないものにしていただきたいなと思いますので、いろんな形で、それこそ多文化共生ラウンジにこのビラを多言語化して配架するとかということもできるのではないかと思うので、それは行政が率先してやっていただきて、横浜に住んで安心して暮らし続けることができるようなものにしていただきたいというふうに思いますので、要望させていただきます。
- **青木亮祐委員** 17ページの磯子区の事例のところになりますけれども、地域と若者世代のつながりが希薄というのは、何でじゃあ地域と若者世代のつながりが希薄になるかというと、若者世代のお父さんお母さんが忙しいから、地域に出ていかないから、それは、そのお子さんたちは、希薄になってしまるのは当たり前なので、現役世代の皆様、私も結構若い頃から消防団とか町内会というのをやってきましたけれども、現役世代は忙しいと、あまり関われないからということを理由に、なかなか地域活動には来ていただけない。それでもお祭りとかおみこしとか地域防災なんかを通して、なるべく入っていただけるように少しずつ努力はしてきたのですけれども、だから結局、地域の活動をしちゃうと結構深くなっちゃって、もう行かざるを得ないような状況になるんだけれども、空いたときにできるような形というのが物すごく大事だと思うのですけれども、横浜市として、現役世代に少しでもいいから参加をしてもらうような何か工夫とか、そういったことってされてきてるのでしょうか。
- **宮島市民協働推進課長** 御質問ありがとうございます。再三出でておりますよこむすびサイトが、まさにそういう時間を限定してとか、1回限りとか、そういうことでまずは地域に関わってもらえるようなイメージ

も持っておりますし、日時などでも気軽に検索してイベントを絞り込んだり活動を絞り込んだりすることができるようになっております。そういう機能を搭載したのも、ずっと関わり続けるのは重たかったりとか、そういうことを最初から感じていただかずに、まずは地域に触れていただくというところを実践できるようにそういう機能を実装しておりますので、まさに委員がおっしゃっていただいたとおり、そういった入りやすさというか活動に関わる多様さみたいなところも、しっかりと考えてこれからも取り組んでいきたいと思っております。

- 青木亮祐委員 青葉、都筑で今年の4月から運用されているということなのですけれども、今のところここで通して地域活動をした実績みたいなものって、そんな統計は取っているのでしょうか。
- 宮島市民協働推進課長 よこむすびサイトは情報のポータルサイトになっておりますので、実際ここから何かが成立したとかというものは、自動的には測れないような状態でございますので、今後、利用団体様のアンケートなどを通じて状況を取っていきたいというふうに思っております。
- 青木亮祐委員 このよこむすびのサイトを都筑区民や青葉区民にお知らせというのですか、知つていただくために今もされていることって何でしょう。
- 宮島市民協働推進課長 各地域の連絡会議等で広報させていただいたりとか、あと、区版の広報よこはまでの周知、それから各センター、区役所等でのチラシの配架、そういったものをやらせていただいております。また、地域限定ではありませんけれども、SNSのエリア配信みたいな、そういったところも実施しているところでございます。
- 青木亮祐委員 まずは、このサイトを知つていただくということが一番大切な取組になるのかなと思いますので、ぜひ区役所と連携をしていただいて、こここのサイトを知つていただくというところから啓発活動をしっかりとやっていただきたいと思います。
- 清水富雄委員 今までずっと皆さんのお話を伺つてきて、1つ、越久田さんからボランティアの助成とか、あと、太田委員から加入率のお話も出たのですけれども、私は今回、市民活躍、地域コミュニティ活性化、これは物すごく興味があつたし、自分で希望してこの委員会に入れさせてもらいました。

そういう中で、私は西区なので、昨年の話をさせていただくと、西区で80周年の行事があつたのです。この5ページを見ながら話をしたいと思うのですけれども、地元の皆さんの中には、自分が好きなこと、得意なこと、それも一生懸命、そのパワーはすごいのです。

西区のいろんな区制80周年の事業をやるに当たって、区で自主事業として考えたものと、別途、地元からこういうものがあるなら登録したいという人を募つたら100を超える団体から申込みがあつて、とても昨年は盛り上がつたのですけれども、これでもってとても、もちろん横浜駅周辺の企業さんからも応援をいただいて、菊地区長は、大変地元の皆さんのおかげさまでということを言つられていました。

ですから、この5ページの図で見ると、地域のそうした今あるコミュニティと、別途、区役所が一方的に支援しているのが矢印になっているのですけれども、そうじゃなくて、この中に区役所も局も入つてもらつて、例えばここにおられる委員の皆様方、皆さん地元のまさにコミュニティのプロですから、恐らくお1人で顔の見える関係、さつき柏原委員がおっしゃつたのですけれども、顔と名前が一致する方々、それぞれ委員の皆様方は1000人ぐらいいると思うのです。だから、それぐらいの勢いで市民局のメンバーも地域に入り込むというか、そういうことが大事なのではないかなと思うのですけれども、いかがでしょうか。

- 市川地域支援部長 御意見ありがとうございます。ただいま清水委員が言つたとおり、どちらかという

これまで、資料のほうでも説明させていただいているところでもあるとおり、地域主体にウエートを置いてというところで私たちは支援していくという構図、絵を描いて御説明をしてきているということが多いのかなというふうに思っています。

ただ、各これまでに御意見をいただいた委員さんのお話にも出てきておりますとおり、多様な地域課題、それから住んでいる地域の皆様の状況って見ていくと、本当にもう高齢化も進んでいますし、担い手も不足しているという中でいきますと、区役所自体は、地域協働の総合支援拠点というふうにも言われているとおり、行政が今と同じでなくとも少し積極的に、ある意味、プッシュ型って言ってもいいのかもしれませんが、入り込んでいくということも必要なのかなというふうに思っています。

その中で、先ほど竹内委員からもありましたとおり、いろんな局の施策をそこで持つていて地域の課題解決に結びつけたりだとかというところで、行政側の果たしていく役割というのも非常に多いのかなというふうにも思っていますので、今言われたとおり、地域プラットフォームの中にどっぷりと行政が入り込むかどうかは別としましても、この絵で見ている以上に、実際には、これから行政というのは、もっと地域に近づいていくというか寄り添っていくような形でいろんなことを展開していく、あるいは、こういうことがありますよということで地域の方にいろいろ提案していく、そんなような役割を持ちながら、区役所であれば地域協働の総合支援拠点の話を私はさせていただきましたけれども、そういった機能も強化していく、そんなことも必要なのかなというふうに感じております。

○ 清水富雄委員 成り手不足ですか、また、少子化・高齢化のいろんな課題がこの中にとても詰まっていると思うのです。ですから、ぜひそういうことでこの1年間よろしく。一句浮かんだので、加入していない人へもよこむすび、以上です。

○ 篠理恵委員長 ありがとうございます。

○ 田野井一雄委員 すみません。結びの言葉みたいになっていますが、それぞれの委員の皆さんから貴重な意見、事務局は大変だと思うのです。区づくり推進会議ができて20年以上たっているのですが、そこで港南区の場合には、様々な個性ある区づくりですから、いろんな意見を出し合って、こういうやり方をさせていただきます。港南区では、区民祭りとは言わないで、こうなん子どももゆめワールドといって、国際交流ラウンジとか、もう大変な人が、港南区には、ほかの区に絶対ないものは刑務所と慰靈堂ですから、刑務所の矯正展と一緒にやるのです。そういう中で、1万人を超える参加者があるのですが、例えば学校には、それぞれ野球、卓球とか学校開放でいろんな部活、サッカーもありますよね。そういうところが年間の運営費を何とかたたき出すために焼きそばを焼いてくれたり、いろんな活動を港南区は盛んにやっています。

今年は皆さんの区でも盆踊りが復活したと思うのです。こんな地域に、こんな地域と言ったら怒られちゃうんだけども、子供たちがこんなに浴衣を着て楽しそうに来ている。

僕も50か所ぐらい港南区を回ってみたのですが、やはり地域の声は現場にありだと、私はそんなふうに思っていて、これを市民局が全区一齊に同じようなことはできないと思うのですが、そういうことで、私たち港南区は、子供会活動は50年以上やっていますので、私たちの地域の子供会は、子供が4年生になったら役員をお願いするという決まりになっています。そういうことの中で、例えば忙しい人は、町内会の自治会に広告のポスターを貼るぐらい、1枚だけでもやってほしいと。

親のつながりがあると子供のつながりも出てくるということで、昨日も、横浜市の子供会の毎月会合があるのです。関内ホールでやるのです。青葉とか鶴見とかが来るのは大変ですからなかなか会議に出てこられ

ない。簡単に言えばもう子供会を抜けるよと、こういうことも、今、大変な課題としてあるのです。

しかし、こども家庭庁もできたように、子供子供といつても、実際に何が子供たちの思い出づくりかと、こういうことになってくるので、そこに皆さんがあれぞれ個性ある区づくり推進会議で議論をされていると思うのですが、そんなことも踏まえて、もう30年前以上から大岡川のクリーンアップ作戦とか、今、例えば町会の加入率が66.7%と、こういう数字になってきている。今、どの組織も団体もみんな縮小縮小で、町内会の加入率と同じような状況では私ないかと思うのです。

その上に、港南台にある今度は横浜女子短期大学が来年廃校、やめちゃうということになったのです。保育士の学校なのです。今まで二十数年で1万人の保育士を出しているのですが、それが閉校になってしまふと。港南区には4つの小学校、2つの中学校があるのですが、どんどん縮小して、もう学校ですら合併をすると、こういう時代背景だとこんなふうに思うのですが、こういう時代背景の中、推進課は、各区役所のよく地域に出向いてやっていると思うのです。区長も率先してやっていると思うのですが、この辺の動きの中で、今後、皆さんの意見を踏襲して私は意見を求めませんが、今日お渡しいただいている資料は、総花的に全部よくできていると思います。

それを踏まえて、私たちがこれをどう活用して、議員としてどうなすべきかということを考えていくべきではないかなど。だから港南区の場合には、こうなん子どもゆめワールドということで子供たちの出番をつくってやるのです。そうすると子供たちがお互いさまに、子供のつながり、親のつながりができて、非常に活性化していることは事実でございますので、そんなことで、私は、今、A IとかC h a t G P T、A Iが人間を凌駕するような時代背景になったのですが、私は現場主義でいきましょうと、こういうことで、私も脳がもう古ですから、そういうことよりも現場主義を徹底していると、こういうことで現場に出るといろんなことが見えてくると、こういう形ではないかと思いますので、港南台もそういうことでどんどん撤退をして、高島屋も抜けました、ダイエーも抜けました。

だけれども、私は、今日も孫と港南台に買物に行くのですが、意外とそこがバーズ旗争奪少年野球大会というのをやっていて、少年野球なのです。そういうことの中で、やはり企業も頑張ってもらわなきゃいけませんので、トータルとして、私は御意見として申し上げたいと、こんなふうに思いますが、感想でもあつたらひとつお聞かせいただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。本当によくやっていると思います。

- **市川地域支援部長** 御意見、田野井委員、ありがとうございます。まさに私も職員時代、港南区におったことがありますので、その当時と比べると、大分状況が変わってきているなという実感を持っています。港南区に限らず皆様の地元の区の中では、活性化が一方で進んでいたりするところもあれば、あれ、こんなはずじゃなかったのではないのかなというようなところの地域というのもあるんだと思うのです。

私たちは、先ほどのプラットフォームの話ではないのですけれども、そういったところをきちんと見て、じゃあこここの地域にはどういう課題があるって、どういうことを投じてあげるとそこがよくなつてという部分のまさにコーディネートの話につながってくるところなのかもしれないですが、それをいろんな地域にある団体さんだけにお願いするようなことではなくて、行政がどこまでそこに関わつていいのか、関わっていくにはどうしたらいいのか。

一方で、職員もなかなか採用が少子化の中で難しくなっている状況の中で、さらにそういうことも考えながら何ができるのか、体制的にどういうことがしていいのか、そういうことを本当に考えなきゃいけないなというところに来ておりますので、私自身もこの委員会を今年度設けていただき、恐らくそういうたい

ろんな地元のお話を委員の皆様方から聞かせていただいて、局としてどういう施策が実際できていくのか、それを非常に参考にさせていただければというふうに思っておりますので、ぜひこの後もいろんな御意見をいただきまして、よりいいものが施策として組んでいけたらいいなと思っておりますので、引き続きどうぞよろしくお願ひいたします。ありがとうございます。

- 田野井一雄委員 当委員会はサポートの委員会ですから、頑張ってください。
- 黒川勝副委員長 いろいろ御説明ありがとうございました。また、各委員からもいろんな御意見が出て、なるほどなというようなことばかりだったのですけれども、時代が変わってきていて、基本的には自治会町内会というのが基礎的にあって、その加入促進というのは、僕らは平成23年に議員提案で横浜市地域の絆をはぐくみ、地域で支え合う社会の構築を促進する条例というのをつくって、その条例をつくったときにも自治会町内会の加入促進というのは非常に大きなテーマで、義務化できないかとか、あと、例えば罰則をつくれないかとか、そんなことも検討したのですけれども、地縁組織という意味での自治会町内会には、そういう義務化というのはそぐわないというようなことで、なかなかそういうことはできないなというようなことがあったというのを今日は思い出していたのですけれども。

ただ、自治会町内会、例えばマンションが1個できましたと、大きなマンションができたときに、地域の自治会町内会に入るということになるケースと、あるいは、マンションそのものが単体で自治会町内会になるケースがあったりですとか、あと、連合町内会との関係はどうするかみたいなことがったりという中で、結構いろいろ考えていくと負担になることって多くて、なかなか自治会町内会に入らえなかつたりというようなことがったり、あるいは、マンションがごっそり自治会町内会に入ると、自治会町内会の3割ぐらい一気に人口が増えちゃって、そこでいろんなあつれきが生まれたり。

昔ながらの自治会町内会の中に新しいマンションが入ってきて、そうすると、例えば昔ながらの自治会町内会のほうから副会長さんを必ず出してくださいとか、子供会は皆さんにお任せしますから全部やってくださいとか、あるいは、逆に、子供会はこういう形でやっているからそこに一緒に入ってくれないと困りますからとかというようなことだったりだと、そういういろんな制約があるんだったらもう入るのやめちゃおうかみたいなことになっちゃったりとか、それで、ましてお金を払わなきやいけない、負担金みたいなものもあるとかというようなことになると、自治会町内会が何をやっている団体なのかよく分からぬからお金を払う必要はないのではないかみたいなことで払わなくなっちゃう。だけれども、それは、いざ大災害なんというときには、非常に困ることになるしというようなこともあるので、自治会町内会、最小単位なのかなと思うし、大事にしていかなきやいけないなと思っていますけれども。

あと、逆に、時代が変わってきて、今日いろいろと御紹介いただいたような新しい組織というのがどんどん生まれてきているなというのを非常に感じています。それは割と、どちらかというと、自治会町内会というよりは、もう少し広い範囲の中で、地縁組織というよりは、ワンイシューに対して何かつながっていこうというようなことで、例えば子育てみたいなことでつながっている組織があったり、あるいは野球でつながっている、サッカーでつながっている、ミニバスでつながっているみたいなそういう組織があったり、あと、環境問題みたいな部分で、まちの環境をきれいにしましょうみたいなところでつながっている団体があったりとか、そういうのがいろいろあるのですけれども、その中の行政の役割というのが、一番大きいのは、そういった団体が、割と子育ての団体なんかだと、子育ての期間が終わっちゃうと団体から離れていっちゃうとか、持続可能性みたいな部分でなかなか長く続かなくなっちゃう、担い手がどんどん卒業して

いらっしゃうとか、あるいは、お金がつながらなくなっちゃうとかというようなことで難しいのかなとも思うのですけれども。

そういうところで、行政の中で役割というのは、僕は、お金をどうやって援助していくかとか支援をしていくかとか、そういう中で継続的にずっと続けていくための資金的な部分の、行政がお金を出せという話ではないのですけれども、どうやつたらお金を生み出すことができるかとか、あるいは、最近のことですから、クラウドファンディングなんかの活用の仕方だったりですとか、あと、ふるさと納税みたいなものも、企業版のふるさと納税なんかを使っていろいろと地域にお金を還元するみたいな企業もたくさん出てきているというような話も聞いています。

あと、例えば日本財団みたいなところからお金を引つ張つてくる、引つ張つてき方みたいなことだったり、あと、横浜市でやっている補助金みたいなことと同じようなことを県でもやってたり、国でもやってたり、あるいは区役所でもやってたりなんていうようなケースもあつたりするのですけれども、そういうお金の引つ張つてき方みたいなことをうまく情報として提供するだとか、あるいはそういうことを指導するだとか、そういうようなことというのは、行政として僕はやれるのではないかと思うのですが、あまりそういうことには関わっていきたくないとか、関わってこなかったとか、あるいは、あまりそういうことに関わっちゃうといろいろとあつれきが出てくるとか、どこかの企業に偏つたみたいなことはやるべきじゃないとかって考えているとか、その辺り、少し考え方を教えてもらえますか。

- **宮島市民協働推進課長** 御質問ありがとうございます。公益活動団体への御支援の中には、資金調達に対する御相談の対応というのも含まれておりますし、様々なファンドを活用するとか、企業様に、財団とかそういういったところに御支援いただくとかの道筋も様々メニューはありますので、情報はこちらのほうでも用意して、各センターのほうでといった情報提供をさせていただいているような現状でございます。
- **黒川勝副委員長** ゼひそういう情報提供を、最近は企業がいろいろと出してくれているみたいなこともあつたりするので、そういうようなことも含めて、例えばイオンさんだったり三菱商事みたいな大きい会社だったりですとか、そういうところでもいろいろと地域貢献活動の一環として助成金の仕組みみたいなものもありますので、そういうのもゼひ活用してもらいたいなと思いますのと。

あと、人のつながりみたいな部分では、もう少しそういう人材を、こういう団体が新しくできましたと、人がなかなか増えなくて困っていますみたいなところに、例えばマッチングみたいな形で2つの団体を1つにしちゃうみたいなこともありなのかもしれませんし、あるいは、こういうことを考えている人たちもいるけれどもみたいなことでとか。

あと、あるいは、先ほども出ましたけれども、大学なんかでは、この間、近隣のお祭りに行きましたと、若い学生たちが一生懸命おみこしを担いでくれていて、どこから来たのって言ったら、全員一本釣りりというか、綱でごそっとみたいな感じなのですけれども、関東学院大学の教務課に行ったら近くにラクロス部の合宿所というのがあって、男女のラクロス部のチームがみんなでおみこしを担ぎに来てくれて、そこで地域の話なんか、おみこしですから、時々神酒所で休憩なんていいうようなときがあると、勉強の話をしたりだとか、地元の中でも、夏休みなんかに自治会町内会で子供たちを集めて子供たちが勉強するみたいなときに、横浜市立大学の学生たちが来てくれて子供たちの勉強を見てくれるみたいなことがあつたりとかというようなことで、そういう人のつながりみたいなものに厚みを持たせるみたいな、そういう協力も行政の役割としてあるのかなとも思うのですが、その辺りでいろいろ工夫していることとか、何かあれば教えていただ

けますか。

- 宮島市民協働推進課長 おっしゃっていただいているように、つながりの機会というのがとても大事だなと思っておりまして、様々な人と人とのタッチポイントが増えるように各センターが交流会のような企画をつくってやっているものもありますが、なかなかそれだけですと、意図したマッチングしか起きなかつたりということもありますので、今、黒川副委員長のほうからもお話しeidaitaのような、若い世代だつたりとか、本当に地域を超えてとか、何かのきっかけで会うとかという、より広い視点を持ってそういう機会を捉えて、今後もつながりづくりについては意識しながら取り組んでいきたいと思います。
- 黒川勝副委員長 ぜひ、そういうところが大事なのかなと思っています。基本的には、自治会町内会みたいな活動があって、そのほかにもいろいろな趣味のサークルみたいなことがあったり、地域活動みたいなことがあったり、消防団もあったり、あと野球チームもあったりとかって、いろんな関わりの中で、何か1つぐらいそれぞれの家庭が地域とのつながりみたいなものを持っていると、それがいざ大災害みたいなときには、強い絆が生まれたりというようなことになったり、そういうところで例えばものの行ったり来たりにもつながったりというようなことがありますので、そういう意味では、このよこむすびというサイトがどんどん広がっていって、僕は、それこそスポーツチームなんかもどんどんこういうところに登録してもらったらいいと思いますし。

先ほど六十何団体だったかな、今加入していると言いましたけれども、見てみると、実際にサイトで紹介されている団体ってそんなに、全部入っていますか。全部入っていればいいと思うのですけれども、ぜひこの2区だけじゃなくて、一日も早く全区展開していただきたい、それぞれの区でどういう活動をやっていてというようなことだったりですとか、例えば金沢区で家は住んでいるけれども仕事は磯子区で働いているみたいな人たちが磯子の団体に入ってもいいと思いますし、金沢の団体に入ってもいいと思いますし、そういうことだったり、あるいは、横浜全体で大きな規模でやっているような団体もあるし、区ごとに小さい規模でやっている団体もあったりしますので、そういうところも網羅できるような形で、こういうサイトで自分の興味があるもの、そういうイベントがあったらちょっと顔を出してみようかなとか、そういうふうに思ってもらえるようなそういうサイトにぜひしていただけたら、さらに地域のコミュニティーの活性化につながるのではないかなと思いますので、よろしくお願ひいたします。意見です。

- 麓理恵委員長 では、ほかに御発言もないようですので、本件についてはこの程度にとどめます。



◎ 閉会宣言

- 麓理恵委員長 以上で本日の議題は終了いたしましたので、委員会を閉会いたします。

閉会時刻 午前11時38分